まがいっぱい

「ねーねー、第２次世界大戦後の日本って順々に４つの悪魔に取り憑かれていたってのは、本当なの？」
「ん、勉強したな。……確かに、４種の魔に憑かれていたことは確かだけど、悪魔、と言い切ってしまうのはちょっとかわいそうだよ」
「どーして？　魔、だけだったらいい訳なの？」
「だいたい、人は自らの持ち得ない力を持つものに対して畏敬や畏怖の念を生ずる。しかし、悪魔という概念は西洋伝来のものであり、日本では人の力を超えたものには恐れも抱くが決して敬いの心を持たないということはない」
「でも、魔っていう字には、鬼がいる……」
「鬼はもともと神だ。その証拠に地獄で閻魔さんに仕えている」
「閻魔さんって悪者じゃないの？」
「だったらなぜジャスティスの如く人を裁くことができるんだ？」
「……て、天秤を持ってない」
「一度往生要集絵巻でも見てこい。ちゃんと天秤がある。心臓じゃなくって直接本人を乗せるでっこいのだけどな……」
「なにで釣り合いとるの？」
「岩とか山とか……」
「すんごい重いんだ。人の魂って３５ｇってのは嘘なんだね？あ、もしかすると岩とかの方が軽くなっているのかなぁ……。どなの？」
「罪の重さは関係ないんだ。で、その４つの魔はなんだった？」
「らぷらすとまっくすうぇるとるーだんとまるくす。
で、それって悪いことしたんじゃないの？」
「よくは知っているけど、どうして悪者にしたがるんだ？　本人はよかれと思ってやっているかも知れないっていうのに……」
「どうしてそんなに肩持つの？　知り合いでもいるってゆーの？」
「マックスウェルの魔ならお友達になりたいけどね」
「ん？　えっと、えっとえっと……西洋的合理精神をはびこらせた奴ね。ほんとは因果応報、エントロピーなんかを司るのに……」
「それはラプラスの魔。ナポレオンにニュートン力学を礎とする世界観を献上したラプラスが生んだか呼び出したと言われている」
「じゃあまっくすうぇるも、るーだんも、まるくすも？　あ、突然わかったけど……もしかして、最後は丸楠っていう日本人なのかな？」
「……本当にそう思うか？」
「え……。ま、まさかそんな、マルクスは禁欲派の哲学者でゲルマン民族と戦っ……なんか違うぞ」
「それはローマ皇帝、マルクス・アウレリクス・アントニヌス」
「なるほど」
「資本論……」
「……？　お、思い出したことにしとく」
「もう。ちなみにルーダンの魔以外は呼び出した者の名前がついている。ルーダンの魔はイギリスの作家オルダス・ハックスレーが呼び出したらしい」
「で、なんでまっくすうぇるの魔が好きなの？」
「周知のとおりマックスウェルの魔は高度経済成長という奇跡を起こした。彼、あるいは彼女は無限大分の１の確率さえあれば、それを可能とする力を持っている。だから、この鉛筆だってその原子すべてを一度に地球の引力と逆の方向に動かしてみせるなんて芸当だってする。そう、浮かせるってこと」
「じゃあ四方八方に飛び散らせることだって……」
「それどころか、飛び散らせた原子をまた元のとおりに組み直すことまでしちゃう」
「すごいね、それでどうするの？」
「自分を浮かしたい」
「……なるほど、ふ～ん……」
「……別に、相手にされなくてもかまわないよ。けど、言うだけ言っとく。自らを浮かすにはそれなりの力が、マックスウェルの魔の助けを容易に得られる浮く確率にまで上げる力が必要だ。それは、早い話念力だけど、人には五感があって……」
「あー第六感」
「それを浅はかと言う。五感、即ち五識を感じるものを第六識、あるいは意識と言う。さらにその第六識を感じる処がある。第七識、日本語では当てはまる言葉が用意されていない、それだけ一般的ではないけど、とにかくあるんだから仕方がない。サンスクリット語でマナ識と言う。さらに第八識の存在も証明され、勿論日本語では当てはまんないからサンスクリット語でアーラヤ識。ついでに密教では第九識の存在も認められているが、一般的に今回はアーラヤ識で話を進める」
「その一般的がわかんないからどーでもいい」
「とにかく、第八識でもって身体中の分子原子を一斉に上向きに移動させるべく、ほんと心の底から念じていれば、いつかはマックスウェルの魔も手伝ってくれるだろうと思って……」
「残念でーした。と」
「でも、ヨガでは浮いてるぞ」
「でもでもでも、自分は浮いたのかな？」
「ル、ルーダンの魔はとっても大きなカリスマをたくさん生んだ。集団催眠を遣ったんだけど、結局そのカリスマも長続きはせず、消えると同時に高度成長もおしまいになり、いよいよマルクスの魔が登場した。そして今もマルクスの魔は健在だ」
「だから浮けないの？」
「えっと……、本物のマルクスの魔は日本に平等という呪いを遣って現在でも元気なようだ。偽者はそろそろ化けの皮がはがれて消えかかっている」
「偽者？」
「東欧の方でうっすらと見かけたという目撃証言もあるようだ」
「じゃあ次はどんなのが来るのかな？」
「さーね。あんまし来てもらいたくはないけど、日本は取り憑かれやすいからなぁ……。なんかよく理由わからへんけど……」
「だから浮こうとしている訳なのかなぁ？」
「ふっと思ったけど、ラプラスの魔を遣っていないか？　だから最初からこんな予定調和……」
「おおっあったり～っ!!　おみごとっっっ・・・」

おしまい

参考文献「数学の頭の体操」「往生要集絵巻」「仏教概論」他

Maki Rouel